

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

世界へのプレゼント  
になろう

第 2606回 例会  
平成27年10月30日(金)  
天候 晴れ  
合唱 奉仕の理想  
四つのテスト

会長 佐藤 泰文

幹事 山本 明峰

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原  
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

### 会長挨拶

地区大会は、クラブから離れ、他のクラブのロータリアンと交流してエネルギーを蓄える機会です。又、日頃の責務からも一歩離れ、ロータリーに浸ることで、現実の自分の状況を確認し、今後の方向性を考える場です。

会員増強において、ロータリー家族の内外で新会員を募り、青少年プログラムの優秀な参加者がロータリークラブに入会しやすいように、障壁を取り除き、同時に今後も社会貢献を望む退職者にも声を掛けていくことは、私たちロータリアンの責務であると考えます。入会した会員は、ロータリアンである価値を実感し、クラブに貢献する義務があります。

ロータリーの大きな目標のひとつは、ポリオの撲滅です。今年こそ野生型ポリオの発症が、世界で最終を迎えることを望み信じています。しかし、その大きな節目を迎えられたとしても、ポリオの闘いが終わるわけではありません。それは、野生型ポリオ無発症の状態が世界で3年間続かなければ、「ポリオフリー」と認定されないからです。ですからその間、子供たちの予防接種を継続し、ウイルスに対する監視活動を続け、ポリオに対する高い認識を維持しなければなりません。

ポリオのない世界という最終目標の実現。これには私たち誰もが何らかのかたちで貢献できる目標ではないでしょうか。

「私たちがこの世に生まれてきた理由には大きな意味があり、それぞれの役割があります。それには世界のために役立ち、地域社会の改善のために、自分にとってできる範囲に於いて少しでも住みよい社会を構築していくこと」とのコメントです。

【RI 会長よりのメッセージ】

### 幹事報告

ガバナーより

1. 地区大会のお礼状が届きました。
2. 11月のロータリーレート 1ドル120円  
神静民報社より

1. 第9グループ連名の年賀広告のお願い  
広告料：10,000円

原稿締め切り：11月25日(水)

連絡事項

1. 11月の例会は、6日、13日、20日、27日の通常例会です。

### スマイルBOX

佐藤泰文君

本山の大法要が終わりました。欠席が多く申し訳ありません。

深澤昌光君

10月27日(火)千歳川で湯小6年生と菜の花の種まき、天候に恵まれて実施できました。ロータリーの皆様にも参加していただきました。来年の春が楽しみです。

石倉幸久君・室伏学君・高杉尚男君・渡辺久恭君

ふれあい広場産業祭とハロウィンを開催しました。渡辺久恭君 湯河原町民ゴルフ大会でベスグロとりました。

石田浩二君

地区大会でのバス利用および弁当注文有難うございました。

石倉幸久君・平間章弘君・室伏学君・高杉尚男君・渡辺久恭君・石田浩二君・高知尾朝行君・山本明峰君・伊藤伸之君・杉山茂久君・佐東丈介君・西山敦君

地区大会を欠席しました。

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 0名	会員 23名
	欠席 3(免除者 2名)		出席率 95.24%
	前回の修正出席率 95.24	前々回の修正出席率 76.19%	

事前メイクアップ 1名

渡辺久恭

私は本年度、地区財団資金推進委員会に所属しています。主な委員会活動は寄付のお願いとロータリーカードの推進です。まず、寄付実績ですが、湯河原クラブは会費に含めさせて頂いている為、ロータリー財団年次寄付1人当たり200ドル以上、ポリオプラス一人当たり40ドル以上、米山奨学金への1人当たり20,000円以上の寄付は全て100%です。しかし、100%に達しないクラブが多くあります。その為、田所委員長は各会長幹事会に訪問しお願いに廻っています。まず、寄付金0の会員を無くしたいと言っています。

湯河原クラブは大変、優秀なのですが、ベネファクターがないのが残念だそうです。ベネファクターとは、(後継者)を意味する称号で、ロータリークラブ等への寄付者に対し贈呈される例が顕著である、例えば、国際ロータリーにおいては、1,000ドル以上の寄付者、又は金額を問わずロータリー財団恒久基金に対して寄付することを、遺書或いは資産計画等書きしるしたことを財団に通知した者に対して贈呈されます。

ロータリーカードの推進ですが、本年度はとにかく各クラブで2名以上の加入をお願いしています。そうすると65クラブで130名の増強に成ります。出来れば会長、幹事をお願いしたいそうです。宜しく、お願い致します。申込書はないのでネットで申し込んで下さいとの事です。ロータリーカードでポリオ撲滅に貢献されているクラブを紹介いたします。

甲斐RCは少ない会員だから出来る事と(100%ロータリーカード保持クラブ)にチャレンジすること決定し、この目標達成により会員同士の結束がさらに強まり、現在までに会員数を11名から18名に増強。岡山南RCは例会場の入口にロータリーカードの紹介、入会ブースを設置し、未加入の会員、新会員への声掛けなど積極的に普及活動をして個人カード132枚(ゴールド5枚、スタンダード127枚)ビジネスカード24枚保持しています。

ポリオはインドに続きナイジェリアでも昨年7月24日以来1年間、野生株ウイルスによる症例が1件も報告されておらず、ポリオフリーを達成しました。この状態が9月まで続けば、世界保健機関(WHO)によってポリオ常在国リストから外され、残りパキスタンとアフガニスタンの2か国になります。さらにアフリカのポリオフリーが認定されることになり、世界の公共保健における歴史的な偉業となります。

田所委員長が会長幹事会でお話している、2660地区PG戸田孝様の「ロータリーに入ってよかった」より抜粋したポリオプラスに命をかけたロータリアン山田彝さんを紹介いたします。20年の年月をかけ、ロータリーにとって、初めての地球的規模の財団プログラムが全世界のロータリアンの協力を得て終結しようとしているときに、命をかけてこの計画の推進に献身された奉仕の軌跡を振り返って見るのが大切であろう。

国際ロータリーは、1978年東京国際大会において3Hプログラム(保健、飢餓追放および人間性尊重プログラム)を発表し、1983年~88年にポリオプラス・プログラムに発展、創立100年にあたる2005年までに、世界の多くの子供を死か障害を持って生きねばならないポリオを地球上から撲滅する計画を決定した。ポリオ撲滅は全世界の幼い子供を持つ親たちの強い念願であったのだ。1915年ニューヨーク市でポリオが大流行し、7,000人の幼い命を奪い、27,000人を麻痺させ、鉄の肺に入らねばならない子供の将来を打ち砕いた。日本でも、1960年北海道、夕張から始まり、瞬間に北海道全土に広がり、幼い子供を持つ親たちの心配、苦しみは筆舌に尽くせないものであった。ポリオ撲滅という壮大な計画を発足させるきっかけを作ったのは日本人である。

ロータリー財団管理委員長のカルロス・カンセコ氏は、正式の文章の中で次のように述べている。(私はボランティアたちによる一つの奉仕プロジェクトから、また新しい奉仕プロジェクトが生まれたことを実際に見ています。東京麹町ロータリークラブの山田彝さんは、1981年からハシカの免疫プロジェクトを監督するために、ボランティアとしてインドに行きました。その経験を生かしこのボランティアはポリオ免疫プロジェクトを発足させてきたのです。)私と山田さんの出会いは1986年に続き87年の国際協議会にグループリーダーとして参加した時である。この年度の協議会は特別なものであった。(長期間の準備を終えて、この年度からポリオ計画の募金活動が始まったのである。朝9時から5時までの部門別セッションを終え、夕食後7時から11時まで日本語グループでのポリオ計画の説明が2回にわたって行われた。説明者はインターナショナル・コーディネーターの山田彝氏で、彼の経験に基づき、詳しい説明と具体的な募金方法、質疑応答などが行われ、参加者全員が初めて耳にする壮大な計画に、果たして成功するかどうか誰もが不安を覚えたものだ。山田さんがポリオ免疫プロジェクトを始めることになった動機を次のように話している。(私が仕事でインドに行ったときの事です。夜遅くまで続いた会合の帰り、ギョッと立ち止った。ガサガサと音がしたのです。犬か猫が餌をあさっているのかと、音の方向を凝視した時、月の明かりで私が見たものは、芝生の上をやせ細った少年が手と肘を使って這っている姿でした。それは、今思い出しても胸が締め付けられるような痛々しい光景でした。多分幼い頃にポリオにかかり、足が麻痺してしまったのでしょう。この少年の姿を見たとき、私は、南インドの子供たちを日本人の手でポリオから救いたいとの思いが生まれたのです。)山田さんは、1981年からボランティアとしてインドのハシカ免疫プロジェクトに4週間の奉仕活動に従事し、その経験をいかして翌年、南インドのポリオ免疫プロジェクトを推進、近隣13クラブの共同奉仕として活動の幅を広げ、更に東京地区の100以上のクラブの協賛を得て、奉仕の中がさらに大きくなり、効果も上がってきました。

